

事例報告－6

森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

プログラム名： 「森の探検隊」		箕面市立豊川北小学校
(1) プログラムの目標	森林を活用して、動植物の生態を知ること。森林があることで生活にどう関係しているかを知ること。 探検ポイントを設定して、それを回りながら、自然との関わりなどを学習する。 森林の中に入ること、自然と親しむことが気持ちのいいことであることを体感することができる。 自分たちの身近な所に素晴らしい自然があり、その自然を自分たちの手で守っていかねばならないということに気付く。	
(2) プログラムの概要	事前に班分けと役割分担をすること。 回るポイントが重複したり、似たような設問ポイントとならないように、グループ分けしたポイントから、班ごとに回るポイントを決める。 4名～5名の班で、探検ポイントを回って、ポイントで出される質問の答えを考える。 質問は、そのポイント周辺を観察することでわかるものや森林や昆虫・動植物、環境に関する課題などを出している。 回答用のカードに設問、ヒント、答え、感じたことなどを記入する。 学校に持ち帰って、回答を整理し、模造紙にポイントの回答と体験して感じたことなどをとりまとめる。 各班による発表会を実施し、発表や質疑により地元にある箕面の山、森林環境について、学ぶ。	
(3) プログラムの展開		
活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。 ・ in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・ about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・ for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動）		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in、about、for の視点で活動内容を区分		
1	森の探検隊のための準備	
	探検ポイントをグループで決める グループ内の役割分担を決める	回るポイントや学習する内容が重複しないように、児童の希望を聞きながら事前に振り分ける 役割分担をすることで各人の責任を与えること 班で発表することを事前に伝えることで、班で協力して取り組むことを意識してもらう 各班にリーダーシップの取れる児童の配置 支援児童への配慮
about		
2	森の探検隊	
	探検ポイントを回り設問内容の回答を考える 大人のリーダーに疑問点を質問する	子どもたちの自主性を尊重し、分担した役割を果たすように誘導する 間違っていたり、わからない場合は助言する 発表に必要な観点で写真を撮るように指示する
in		
2	フォトフレーム作り、自然工作、水辺の生き物調査、ビジターセンター見学	
	森の探検隊で拾った自然のものを使ってフォトフレームを作成する。 木の実や木の枝などを作って自然工作をする。 ビジターセンターで箕面に生息する生物や植物の実態について知る 水辺にすむ生物の実態や生態について知る	全員が作品を仕上げるできるように目配りをする 自分の使いたい自然の物を拾うことを指示する 箕面に生息する生物や植物の実態を自分の目で確認できるように指示する。 水辺の生き物にはどのようなものがあるか、自分の目で確かめさせる。
in		

6	まとめ、発表原稿づくり	
	図鑑、インターネットなどで調べる 個人の箕面の森の生き物リーフレットを作り、模造紙にグループで大きな箕面の森の生き物リーフレットを作る。	学習で、わからなかったことや詳しいことを調べること で理解する。 国語の説明文教材「アップとルーズで伝える」で学んだ ことを使い、リーフレットづくりをする。 説明文の三段構成を使って、紹介文を書かせる。 資料と説明文がリンクするように指導する。
f o r		
2	発表会	
	みんなの前で発表する 箕面の山について知る	発表に対して評価をする 授業で学習したこととの関連付けをする 少し難しい情報を入れて興味を持たせる 森林の良さ、森林を守っていこうという指針を伝える 探検ポイントだけでなく、箕面の森全体について伝える。
a b o u t		
(4) プログラムでの連携内容 (教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)		
学習指導要領との関連 (例 小学校)		
1年	生活：身近な自然の観察、利用	
2年	生活：生き物を育てる、成長	
3年	社会：飲料水、地域の生活 理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）	
4年	社会：都道府県の様子・生活 理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）	
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全 理科：植物の発芽、成長、結実	
6年	社会：歴史上の事象、文化財 理科：生物と環境	
総合的な学習		横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表
特別学習		遠足・鑑賞、集団活動・生活
森林環境教育の視点		
1 感性的経験	感性的な内容 ー 森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など	
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 ー 植物や動物の生態など	
3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容 ー 森林の働き、保安林など	
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 ー 森林の荒廃、人手不足など	
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 ー 森林整備、育成、維持、管理など	
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 ー その土地での歴史、薪炭林、炭焼き	
(5) 活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目		
教科・項目、視点		学習内容
総合 4年社会	自然体験・地域の特色 地元を知る	自分たちの住んでいる特色ある地域について関心を持ち、それらを 意欲的に調べることを通して、地域社会に対する誇りと愛情を育て る。 また、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問 題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え 方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的、協同的に 取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにす る。
4年理科	生命・地球 季節と生物	生物を大切にする態度を育て、動物の活動や植物の成長と環境との 関わりについての見方や考え方を持つことができるようにする。
道徳 特別活動	・生命の尊さを感じ取り、生命 あるものを大切にする。 ・自然のすばらしさや不思議さ に感動し、自然や動植物を大切 にする。	自然体験や体験活動、観察、調査、発表や討論などの学習活動を積 極的に取り入れる。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
E S Dの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つなぐを尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱	①生きて働く「知識・技能」の習得			
	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成			
	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養			
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育（E S D）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」（三つの柱）に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。（該当がない項目は空欄）				
項目	E S Dの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	「多面的」 森林の中で、木や植物、動物のことを観察することや生活の中で利用していることに繋がっていることを理解する。 実際の森林で活動することで、生息する動物や植物について興味・関心を持ち、森林についてより知ろうとする意欲が伸びる。 森林環境を守るために自分たちができることを考えるなど、自然との関係を考えるきっかけとなる。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「コミュニケーション」 活動を通して、自分の役割を果たすだけでなく、グループの中で助け合い、意見を交わしながら、ポイントの設問の答えを考えることができる。自分の意見を押し通すのではなく、友だちの意見を尊重することができる。 子どもたちそれぞれがグループで活動することによって、意見を交わし合い、行動を選択できる力が身に付く。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「協力」 グループとして伝えたいことを一人で作るのではなく、仲間と推敲し、良いものを作ろうとする姿勢が成長する。 自分の役割外のことで進んで協力しようとする協調性が身に付く。 何事にも進んで取り組み、仲間と共に何かを成し遂げようとするができる。			
(7) 実施後、参加者の変化				
グループで活動し、自分たちで行動プランやその時折に話し合っで判断することで、自分たちで考え、仲間と協力して行動するという協調性が成長した。何事にも自分たちで話し合っで、自主的に行動する児童が増えた。 「箕面の森の森林は素晴らしい」「こんな良いところが箕面にあったなんて知らなかった。また、来たい。」など自然を感じることに素晴らしいに気付いた児童が殆どであった。 また、自分たちが体験して感じたことや考えたことをどのように伝えるかということを考えることで、伝え方や伝える方法などを考えることができた。				
(8) プログラムの今後のめざす方向・展開				
森の探検隊プログラムは半日で行えるため、午後のプログラムを箕面の山についての展示をしている「箕面ビジターセンター」の見学や水との関連がある箕面川ダムの見学、森林散策など、いろいろな学習プログラムを提示できるようにして、先生が授業との関連付けを考えて選択できるように計画する。 「箕面ビジターセンター」では「NOP法人みのお山麓保全委員会」の協力で、ビジターセンターでの展示内容の解説や木工クラフト作成、川の観察などのプログラム実施の協力体制ができた。				
(9) 現状での課題、質問事項など				
教科とのつながりをどうしても考えてしまいがちですが、総合的な学習の時間として取り組むの最良に思います。総合的な学習は学習指導要領に目標として「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」とあり、まさに森林体験学習はその目標に準じた活動になっていると思います。 よく行われる総合的活動は、どの教科にも属さないということがありますが、森林体験学習は理科・社会・算数・国語・道徳とどの教科にも活動後に活用していくことができるのがすばらしいと思います。 その一方で落とし穴として、「教科でつけた力→森林体験学習」となると項目が多すぎて、児童の観点が多すぎて、つけた力も曖昧になってしまうように思います。子どもたちが成長していく上で大切なことは活用力です。「学んだことや体験したことを活かす力」が必要だと思います。 今回、豊川北小学校の4年生では、自主性と活用力をテーマに森林体験学習に臨みました。活動後、国語の言語活動を使っでのリーフレットづくり、社会科の資料活用・理科の生物の観点からの調べ学習などで森林体験学習を各教科に結び付けていきました。このことから「森林体験学習を通して学んだ力→教科」という形で考えることのほうが、森林体験学習でつけた力が明確になるように思います。				